

## 天声人語

フランスの皇帝ナポレオンⅢ世は変装劇でいまに語り継がれる。5年半幽閉された牢獄から逃げ出した際、石工の作業服に身を包み、監視の目を欺いた。

1846年のことだ▼計画は自

身が練つた。帽子を目深にかぶり、大きな板を肩に担いだ。協力した石工の名にちなみ、皇帝にはバダンゲというあだ名が付いたという。鹿島茂さんの評伝『怪帝ナポレオンⅢ世』に詳しい▼「これはバダンゲだ。ナポレオンⅢ世に服を貸したあの石工だ」。仏紙フイガロは、日产自動車のカルロス・ゴーン前会長の保釈劇を19世紀の逸話になぞらえた。作業服に作業帽姿で軽ワゴン車に乗り込む姿から連想したらしく▼追跡のカメラをかわすため弁護士が練つた作戦という。だが変装はたちまち見破られる。「彼が生涯をかけて築き上げてきた名声に泥を塗る結果となってしまった」。当の弁護士がきのう反省の弁を出した▼他方、「ご本人も変装を面白がっていた」という別の弁護士のコメントもある。これまで見せたことのない、ちやめつ気を披露したと思えば、あながち失敗とも言えないのではないか。黒塗りの大型車に高級なスツ姿で乗り込むより、よほど斬新である▼公判となれば、前会長自ら、名誉と名声をかけて法廷闘争に死力を尽くすだろう。有罪無罪どちらの結論が出ても、世界の意表を突いたあの作業服姿は、先々まで語り継がれるような気がしてならない。ナポレオンⅢ世がいまも石工に扮した脱獄話で思い出されるように。